

## 2008年なんてついこの間じゃん

地球の周りを星々（太陽も含めて）が回っている、という天動説が正しいという人は今はいないかもしれません。しかし、今から500年前の世界では天動説が信じられていました。

それはそうだ。だって、目の前の星々（天）は、実際に地球を回っているじゃん。

一見するとそうなんだけど、よくよく見てみると、天動説では説明がつかないような動き方をする星があることに気づいたのが、当時、津修司祭（カトリック教会の聖職者の位階の一つ）であった若き日のコペルニクス。発見当時は、1510年くらいだったそうです。

しかし、コペルニクスは積極的にはこの説を発表しなかったといわれています。さらには、地動説を引き続き提唱し続けたガリレオ・ガリレイは、宗教裁判にかけられることになるのです。当時、その地動説を強く批判したのが、宗教改革で著名のマルティン・ルター。地動説と矛盾する聖書の記述が、批判の大きな理由だったとのこと。（諸説あり）

しかして、ガリレオはカトリック教会から迫害を受けることになるのですが、その後も天体観測などを地道に積み重ねながら、地動説が正しいこと主張し続けます。さらに、ヨハネス・ケプラーやアイザック・ニュートンらが、天動説では説明できない数々の事象を、丁寧な観測を継続し、地動説という新しい理論をもって説明のつく確かな事象へと昇華させていったとのこと。



16世紀を舞台にした、この天文学上の議論は、果たしていつ決着を見るのか。

その記念すべき日が、2008年12月21日。

当時のローマ法王ベネディクト16世が、バチカンで信者らを前に、ガリレオに対して「彼の研究は信仰に反していなかった」と述べたこの日が、地動説が正式に認められた日。

なんだ、ついこの間じゃん！

この事実に、私は大変驚かされました。たった15年ほど前、2008年といえばオバマ米大統領が誕生し、北京オリンピックで北島康介が平泳ぎ2連覇を達成、リーマンショックでの経済危機が起こった年でもあります。ほら、この前でしょ。

そんな時に、ひっそりと地動説が正式に認められる…。

科学革命を成し遂げたガリレオ・ガリレイら学者らの、その洞察力には大変驚かされます。

しかし、なによりもその小さな疑問に気付き、納得できない自分を偽ることなく見つめ続け、懸命に研究を進めるそのレジリエンスに、わたしは本当に驚かされます。途中では、迫害という他者からの批判的な評価も受けているし、もういいか、とか思っちゃいそうなどころにもかかわらず、そして、死してなお、その思想を継続している人々がおられ、その後継者が最後まであきらめなかった。

そうやって、なりたい自分にみんなでなる。そのための、見たことのないさらなる一歩。

本年度のテーマは、みんなでなりたい自分になる「PLUS ULTRA」。もっと向こうへ、これまで見たことのない「なりたい自分になる」ために、みんなで楽しく進んでほしいと願っています。令和6年度も、どうぞ楡木小学校をよろしくお願いたします。